

②重点道の駅「いたの」整備事業

受賞機関 徳島県、板野町

キーワード 防災拠点、移動式水素ステーション、利便性の向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

防災機能を備えた重点「道の駅」の整備。ヘリポート、無停電化施設、耐震性貯水槽、避難所兼備蓄倉庫、防災トイレなどの防災施設を備えており、さらに高速バスターミナルや全国初の水素ステーションなどを備える道の駅として、津波災害を受けない広域的な防災拠点に位置づけられた点が評価された。

1. はじめに

板野町は徳島県北東部に位置し、北には阿讃山脈、南には吉野川平野が広がる豊かな緑と田園に囲まれており、地勢は町域の2/3が小起伏な山地、残りの1/3が吉野川沿いに広がる平野である。

道の駅「いたの」は、高松自動車道板野ICと徳島自動車道藍住ICを結ぶ主要地方道徳島引田線沿いに位置し、県道を管理する徳島県との一体型手法により整備し、本年4月1日に四国で88箇所目の道の駅としてオープンした。

全体面積：約41,900㎡

駐車場：326台

(大型車9台、小型車313台、身障者等4台)



道の駅「いたの」の全景

2. 事業の概要

平成27年10月に板野町総合戦略における重点施策に「道の駅」を位置づけ「生き活きと魅力に満ちた田園都市」をランドデザインとして掲げたまちづくりの一環として、産業の振興、地域福祉の充実、防災拠点化を目標としている。

このため、整備に向けた基軸となる考え方や方針をとりまとめ、整備基本計画を策定し、次世代エネルギーを

備えた未来志向型道の駅として、また防災拠点となる道の駅として整備した。

地域振興施設については、特産物直売所、レストラン及び軽飲食コーナーや農業支援研修室、地域情報コーナーのほか、トイレ、足湯、ドッグラン、レンタサイクル、EV急速充電器などを備えており、本年11月には全国初となる道の駅併設の移動式水素ステーションを整備する予定である。

また、南海トラフ巨大地震など大規模災害に備えるため、道の駅構内にはヘリポート、耐震性貯水槽、避難所兼備蓄倉庫の施設を整備し、災害時における防災拠点化を図った。

さらに、高速バス及び路線バス停留所を整備し、施設利用者また住民の利便性の向上はもとより、公共交通利用促進等にも寄与できるものと考えている。



地域振興施設の全景

3. 事業の成果

当駅は、地域活性化の拠点となる優れた企画が評価され、令和2年2月に国土交通省による重点「道の駅」、本年6月には、広域的な防災拠点として位置付けている道の駅として、「防災道の駅」にも選定された。

また、施設の利用状況については、オープン後間もないが、休憩施設の利用者をはじめ、人参やレンコンなどの特産品を求めて、買い物や食事を楽しむ人で賑わいをみせている。

4. おわりに

施設周辺には、温泉施設「あせび温泉やすらぎの郷」や大型公園「あすたむらんど徳島」、四国88箇所霊場などの観光スポットが存在し、地方創生を具体的に実現していくために、道の駅を拠点として、「新しい人の流れづくり」を実現できるものと考えられる。

今後とも「人が参る道の駅」とキャッチフレーズを掲げた道の駅「いたの」が更なる発展を遂げることに期待している。